科目名	現代文B	授業時数	週　3　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	体育

目標	多くの文章にふれる中で，語彙力，読解力，思考力を養い，広く社会・文化についての理解を深め，それを自らの考えとして表現できるようにする。広く社会・文化についての理解を深め，それを自らの考えとして表現できるようにする。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*　使える	言語文化および言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身につけ活用することができる。	相手や場に応じて効果的に話す，聞く，主体的に表現することができる。目的や意図に応じた適切な文章を書き，自分の考えを発展させている。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め，表現できる。客観的，主体的に思考，判断することができる。
	A　わかる	言語文化および言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身につけている。	相手や場に応じて話す，聞くことができ，自分の考えをまとめることができる。目的や意図に応じた表現による文章が書ける。	言葉や文章で伝え合う力を進んで高め，表現できる力を磨く。客観的，主体的に思考，判断する力を磨く。
	B　できる	言語文化および言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身につけようと努力する。	相手や場に応じて聞き取り話し合い，その内容を理解しようと努力する。自分の考えを文章にすることができる。	言葉や文章で表現しようと努力する。客観的，主体的に思考，判断できる力をつける努力する。
	C　する	言語文化および言葉の特徴やきまり，漢字などについて学習意欲を持つ。	相手や場に応じてその内容を理解しようとする姿勢を持つ。自分の考えを深めようとする学習意欲を持つ。	主体的に学習活動に参加し，学習意欲を持つ。
評価方法		授業態度の観察　定期考査　課題提出　漢字テスト	授業態度の観察　定期考査　課題提出　作文	授業態度・姿勢・準備　グループ活動への取組

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	『はじめての失敗』(随想) 『言葉を理解する』(評論) 『マスク』(小説) 小テスト，作文コンクール，漢字テスト
2学期	『博士の愛した数式』(小説) 『おまえはどこに立っている』(随想) 『小説とは何か』(評論) 小テスト，作文，漢字テスト
3学期	

何で学ぶか(教材)

教科書「新高等学校現代文B」明治書院

教科書「新高等学校現代文B学習課題ノート」明治書院

「常用国語便覧」浜島書店

「新版高校漢字必携」第一学習社編集部

各種プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習(発表)

グループ学習(発表)

科目名	地理A	授業時数	週　2　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース　　探究	

目標	地理への興味・関心を持ち、主体的に学習する態度を育て、現代世界についての地理的な認識をいっそう深めるとともに、国際社会における立場と役割を考えさせる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*　使える	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その知識を身に着けている。	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解し、その過程や結果を適切に表現することができる。	現代世界の地理的な諸課題に対する興味・関心を高め，意欲的に課題に取り組み追及している。
	A　わかる	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項や追及の方法を理解している。	自ら問題意識を持ち，問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し，情報を読み取り整理してまとめることができる。	わからないことを調べ，他と協働しながら課題を解決することができる。
	B　できる	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事項を理解している。	問題意識を持ち，問題解決の見通しを立て必要な情報を収集し，情報を読み取ることができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C　する	現代世界の地理的な諸課題を理解し，その知識を身につけている。	過去の出来事が,現在の国・集団・地域の現状に影響を与えていることを知る。	授業を受けるための教材の準備をし，授業に意欲的に参加し発言することができる。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	地球上の位置と国家 グローバル化がすすむ世界 人々の生活と地形 人々の生活と気候
2学期	人々の生活と産業・文化 各国の生活・文化
3学期	各国の生活・文化 地球的課題

何で学ぶか(教材)

帝国書院『新地理A』

帝国書院『高等学校　新地理Aノート』

プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義

ペア学習・グループ学習

科目名	数学A	授業時数	週　2　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　コース　体育	
目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	粘り強く考え数学を活用し，問題解決の過程を振り返り考察し，評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的に考察し，問題を解決できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	適切な用語・記号を使い，過程や結果を書くことができる。	できないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている。
評価方法		定期考査 授業での演習 確認小テスト	定期考査 提出物の状況 グループ学習での発問 授業での板書・発表	授業態度 提出物の状況 グループ学習での活動 授業での板書・発表

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	数と式 ２次関数とそのグラフ
2学期	順列と組み合わせ 確率
3学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『改訂版　新　高校の数学Ⅰ』
数研出版『改訂版　新　高校の数学A』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
板書・発表

科目名	体育	授業時数	週　3　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース　　体育	

目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	*S* 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し,プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り,考察し,自ら評価・改善しようとすることができる。
評価	*A* わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし,集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
基準	*B* できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し,またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基準	*C* する	基本的な身体機能を理解し,基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	体つくり運動 体力テスト 陸上競技 体育理論
2学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』
大修館書店『最新高等保健体育ノート』
プリント
ICT機器

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習
実戦練習（ゲーム）
チーム練習・戦略会議
iPadによる分析

科目名	国語表現演習	授業時数	週　2　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	体育

目標	漢字の読み書き・ことばの使い方・身につけておくべき常識を自分のものにし，日本語の「力」を習得する。またTPOに応じた表現方法ができ，社会活動においても信頼される人材を目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	習得した漢字・ことば・ことわざ・慣用句・四字熟語を活用する。	文章表現のなかで，習得した国語常識を適切に表す。	日常的な場面で積極的に習得した語句を使用する。
	A わかる	漢字・ことばの正しい使い方ができ，常識用語を認識する。	文章表現のなかで，適切な語句を正しく選択する。	習得した語句を理解し，自分の日常生活に関わらせる態度を持つ。
	B できる	国語常識を繰り返し学習し，正確に理解する。	場面，状況にあった語句の使い方を考え，正しく理解する。	身につけるべき事柄について意欲的に学習できる。
	C する	覚えておくべき国語常識の演習問題に取り組む。	漢字書き取り練習，語句の意味調べに取り組む。	日本語の力を身につけるため，国語を総合的に学習する意欲を持つ。
評価方法		授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト	授業時の観察・定期考査・小テスト

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現　韻文　文学史　文法の力
2学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現　韻文　文学史　文法の力
3学期	・漢字を読む力 ・漢字を書く力 ・ことばの力 ・文章表現　韻文　文学史　文法の力

何で学ぶか(教材)

・テスト式　国語常識の総演習　京都書房

・補助教材プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・　問題演習後の答え合わせ

・　補助教材での反復学習

科目名	日本史Ａ	授業時数	週　3　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	体育

目標	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く 近現代の日本史の展開を、年表や地図, その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する 近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける 主体的な歴史学習と通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	近現代の日本の歴史の展開を，地理的条件や世界の歴史と関連付けて十分理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし，世界の歴史や国際環境等と関連づけて，実証的，多角的，多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を，世界の歴史や国際環境等と関連づけて考察することができると共に，得られた資料や情報を効果的に活用し，歴史を探究する学び方を身に付けることができる。
	A わかる	近現代の日本の歴史の展開を，地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし，世界の歴史や国際環境等と関連づけて，実証的，多角的，多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を，考察することができると共に，得られた資料や情報を効果的に活用し，歴史を探究する学び方を身に付けることができる。
	B できる	近現代の日本の歴史の展開を，地理的条件や世界の歴史と関連付けて概ね理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし，世界の歴史や国際環境等と関連づけて，実証的，多角的，多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開を考察することができると共に，資料や情報を活用し，歴史を探究する学び方を身に付けることができる。
	C する	近現代の日本の歴史の展開を，地理的条件や世界の歴史と関連付けてある程度理解することができる。	近現代の日本の歴史の展開から課題を見いだし，世界の歴史や国際環境等と関連づけて，実証的，多角的，多面的に考察することができる。	近現代の日本の歴史の展開を，考察することができると共に，得られた資料や情報を活用することができる。
評価方法		授業 定期考査 提出物　等	授業 定期考査 提出物　等	提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	私たちの時代と歴史 近代日本の形成 東アジア世界の変動と日本
2学期	二つの世界大戦と日本 第二次世界大戦後の国際社会と日本 現代世界と日本
3学期	まとめ

何で学ぶか(教材)

日本史Ａ（東京書籍）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ討議

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	授業時数	週　3　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	体育
目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすることができる。	まとまりのある文章を思考・表現することができる。	多様な場面における言語活動に取り組むことができる。
	A わかる	相手が表現する内容を正しく捉えることができ，内容を理解することができる。	目的に応じた聞き方・読み方をすることができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなどを的確に理解できる。	適切な用語・要点を捉えることができる。	できないところを人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本文や基本問題を読んだり，解くことができる。	新出単語や表現について理解し，適切に用いることができる。	授業に臨むための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・ 音読テスト	授業・定期考査・ 提出物・ プレゼンテーション	授業・提出物・ インタビューテスト

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	使役動詞 関係代名詞の継続用法
2学期	関係副詞 知覚動詞 仮定法
3学期	

何で学ぶか(教材)

数研出版『Revised COMET ENGLISH Communication Ⅱ』
数研出版　COMET コメット英単語
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習
タブレット教材

科目名	スポーツⅡ	授業時数	週　1　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	体育

目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようにする。体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動することができる資質や能力を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し,プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り,考察し,自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし,集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し,またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し,基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	オリエンテーション・集団行動 バスケットボール バレーボール
2学期	サッカー バドミントン
3学期	ソフトボール 卓球

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』
大修館書店『最新高等保健体育ノート』
プリント
ICT機器

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習
実戦練習（ゲーム）
チーム練習・戦略会議
ICT機器の活用

科目名	スポーツ概論	授業時数	週　1　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	体育

目標	スポーツにおける体力向上,自分の体をマネジメントする能力、知識を養い生涯を通じてスポーツと関わり続ける人間を目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	*S* 使える	日常生活でもスポーツで学んだ知識，能力を活かすことが出来る。	スポーツで学んだことを考察し的確に行動に移すことが出来る。	スポーツから競技力向上だけでなく人間力向上のため，日常生活の振り返りを行い評価・改善しようとすることが出来る。
	A わかる	取り組んでいるスポーツの競技力向上に繋げることが出来る。	1つ1つの知識を頭で理解し的確に専門競技に繋げることが出来る。	改善点を克服する，競技向上のため果敢に学びの姿勢を止めず他者を巻き込んでいく。
基準	*B* できる	学んだ知識，技能を実際にスポーツで活かすことが出来る。	適切な用語・記号を使い，他者に分かるように説明することが出来る。	分からない点等を自ら人に聞いたり，他の者が困っている時に一緒に考察することが出来る。
	C する	スポーツについて基本的な知識を学んだり，理解したりすることができる。	基本的な知識の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることが出来る。	授業を受けるための準備が出来ている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・提出物	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	体力向上の科学的知識について 体力トレーニングについて 自分の体をマネジメント 栄養でパフォーマンスを高める
2学期	・スポーツキャリアと職業について ・指導の場としての学校における体育・スポーツ活動やスポーツイベントについて 知る
3学期	

何で学ぶか(教材)

大修館書店「改訂版 基礎から学ぶスポーツ概論」
プリント
ICT機器

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習
タブレット教材
レポート作成

科目名	基礎体力	授業時数	週　3　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　コース	体育

目標	初動負荷マシーンを利用したウエイトトレーニングの実践を通して,柔軟かつ弾力性のある筋肉を獲得できるようにする。また,身体の調子を整え,怪我の予防を図り,公正,協力,責任などの態度を育て,生涯を通じて継続的に故障しない身体作りができる能力を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	初動負荷理論を理解し,それに基づいた動作・リズムをマシーンで表現することができる。	柔軟な身体を獲得し，　さらにその過程を論理的に簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	初動負荷トレーニングを活かし,問題解決の過程を振り返り,考察し,自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	関節可動域が十分に獲得されたマシーン動作を身に付け,どこの筋肉・関節と連動しているかを理解している。	自分の身体の状況を理解し,マシーンの効果・部位を解説することができる。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	弛緩→伸張→短縮のリズムが崩れず,応用したポジションでのマシーン動作を身に付けている。	初動負荷理論を理解し,用語や単語を適切に用いることができる。	できないところを自ら人に聞いたり,他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的なマシーンの機能を理解し,動作を身に付けている。	柔軟な身体を求め,機能解剖や身体のしくみなどを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物	授業・実技テスト 筆記テスト・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	初動負荷理論 全身の筋肉・関節 マシーン動作・リズム・ポジション
2学期	初動負荷理論 各筋肉の機能・起始・停止 マシーン動作・リズム・ポジション
3学期	初動負荷理論 各関節の機能 マシーン動作・リズム・ポジション

何で学ぶか(教材)

初動負荷マシーン
機能解剖学プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義
・グループトレーニング
・映像学習（動画）

科目名	簡易ソフト	授業時数	週　2　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース　　体育	

目標	ビジネスに関する情報を収集、処理、分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	*S* 使える	情報を適切に収集、処理、発信する技能を習得し活用できる。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を改善できる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
評価	*A* わかる	情報を適切に収集、処理、発信するための基礎的な知識を身につけている。	情報を収集、処理、発信する場合に、方法を工夫したり、目的に応じて手段や方法を判断できる。	表計算ソフトウェア（Excel）の習得に積極的に取り組んでいる。
基準	*B* できる	情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	情報モラルを理解できている。	コンピュータや情報通信ネットワークなどに関心を持ち取り組んでいる。
基準	*C* する	情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査	授業・定期考査

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	情報の活用と情報モラル 表、グラフの作成
2学期	関数の利用 PowerPoint操作 プレゼンテーション
3学期	プレゼンテーション

何で学ぶか(教材)

chromebook

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
PC実習

科目名	選択スポーツ	授業時数	週　2　単位	全 学年
		コース	スポーツ科学　　コース	

目標	各運動の合理的な実践を通じて,運動能力を高めるようにする。また,身体の調子を整え,体力の向上を図り,公正,協力,責任などの態度を育て,障害を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	実践の中で技術や戦術を用いて戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し,プレーをしたり指示を出すことができる。	各競技での経験を活かし,問題解決の過程を振り返り,考察し,自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし,集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分のポジションを理解し,より大きな力を発揮するために,集団でプレーすることができる。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	専門体力を有し,競技に応じた技術を身に付けている。	専門競技に必要な技術を理解し,またその競技のルール等を熟知している。	できないところを自ら人に聞いたり,他の人が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し,基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業	授業	授業

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	基礎練習
2学期	集団練習・ケース練習
3学期	実践練習

何で学ぶか(教材)

各競技に必要なもの

どのように学ぶか(授業方法など)

・講義
・ペア学習・グループ学習
・競技毎の練習

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週　2　単位	3　学年
		コース	スポーツ科学　　コース	

目標	体育祭の演技項目である『心技体』の演技構成を考えることや１つの目標に向かって共に力を合わせて活動すること通して，協働力，実行する力を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*　使える	演技構成をもとに，言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	演技構成を考える中で，特に独創性があり，他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み，課題を自ら設定して解決することができる。
	A　わかる	演技構成をもとに，求められる水準で知識・技能を使える。	演技構成を考える中で，特に独創性があり，他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して積極的に取り組み，与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B　できる	演技構成をもとに，他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	演技構成を考える中で，他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して熱心に取り組み，与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C　する	演技構成をもとに，難しい課題にも取り組もうとする。	演技構成を考える中で，他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に取り組み，与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法		演技構成案の内容などの成果物，演技の試験，練習姿勢	演技構成案の内容などの成果物，グループ活動，練習姿勢	演技構成案の内容などの成果物，グループ活動，練習姿勢

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	体育祭『心技体』演技構成・演技 進路学習
2学期	体育祭『心技体』演技構成・演技 進路学習
3学期	進路学習

何で学ぶか(教材)

どのように学ぶか(授業方法など)

・グループ討論
・実技